

秋建時報

秋建時報

平成20年2月1日(第1166号)



発行 / (社)秋田県建設業協会
秋田市山王四丁目3番10号
TEL 018(823)5495
FAX 018(865)2306

<http://www.a-kenkyo.or.jp>



「森の兄弟」 絵・文：白澤 恵舟

フクロウは、福を呼ぶ縁起のいい鳥といわれる。寒空の下で、く
りくりした目をつぶらに開いて寄り添う姿は、まことに愛くるしい。
まだ冬は厳しいが、元気に育って、立派に巣立つて欲しいと祈る。

韓国エアポート セールスミッション

会長 菅原 三朗

秋田・ソウル国際定期便の路線維持のため、県内経済5団体（秋田商工会議所連合会・秋田県商工会連合会・秋田県中小企業団体中央会・秋田経済同友会・秋田県経営者協会）は1月24日～26日に亘り「韓国エアポートセールスミッション」として訪韓した。

初めに、ソウル便を運航する大韓航空本社を訪問、渡辺靖彦団長（県商工会議所連合会長）から、日本路線チーム長のフォン氏に対し、例年ソウル便の利用が低迷する3月～5月に経済団体の会員で毎月240人が同便を利用する、との行動目標を示して路線の維持に取り組むことを強調した。これに対し大韓航空側からは、「2001年就航以来7年間運航しているが、当初の目標より成績が悪い、これまで相当の累積赤字があるが我慢して路線の廃止を延期している。今年の搭乗率の実績を見ている、昨年は50%台後半

でしかも6：4で韓国人の利用者が多い。大韓航空側としても、支店・代理店等と一体となって、軌道に乗せる努力をしているが、年間を通じて搭乗率70%を超えないと路線の維持はむずかしい」との話であった。

翌日は初めに北東北3県・北海道のソウル事務所を訪問した。同事務所は平成14年11月開設、各道・県が業務委託をして運営しており、主な業務内容は韓国からの観光客の誘致を推進するとともに経済・文化交流を促進となっている。具体的な業務としては、HPを通じての情報の提供や観光説明会や商談会、又旅行AGTとの意見交換会など様々な活動をしており、4道県の訪日韓国人が対前年比46%増と著しい伸びである。

その後は2班に分れ私達の班は、ハナツアー・ロッテ観光・ロッテJTB・プロトン・コーロン・セアチムツアーの6つの韓国旅行会社を訪問し、これ迄の秋田・ソウル便の利用拡大、秋田向け賞品の造成にご協力をいただいていることに感謝を申し上げた。しかし今搭乗率の低迷に危機感を持っており、「秋田県では官民一体で搭乗率の向上に努めており、我々経済団体も一致協力して取り組んで

いる。秋田・ソウル便は国内の他の路線と比べ韓国人観光客の割合が低いので、秋田向け旅行商品の造成に一層ご尽力をお願いしたい。韓国から秋田への観光客は冬はスキーや温泉、夏はゴルフ、秋は紅葉と温泉が多いが、春の利用客が極端に落ち込む。韓国人にとって観光の非需要期にあたる3～5、10～12月について、航空運賃を割安に提供し秋田向け旅行商品が造成しやすいようご協力をいただきたい」などの要請をした。

これに対し旅行会社側からは、「秋田は青森と比べてPR不足でありまた韓国の旅行会社に対して、もっとくわしい情報を提供してもらいたい、特に行政（県）がもっと積極的に応援をする必要がある。インターネットに対応した情報が絶対必要である。又韓国語を話せるスタッフを各分野で増やすべきである。」など様々な要請があった。

これ迄経済団体としてのアピール不足や受け入れ態勢の不備、ビジネス交流の手薄などが反省させられる。今、日本とアジアとの経済活動が加速する中、本県にあってもアジア地域との交流を考えた場合、ソウル便を維持発展させることは不可欠である。

第28回秋田県優良工事表彰

13件15社に栄誉

第28回秋田県優良工事表彰式が12月26日、秋田キャッスルホテルで行われた。

式の冒頭、西村副知事が「今回受賞された13件は、いずれも高度な技術と綿密な施工管理のもとに完成された他の模範となるもので、今後の一層の活躍を期待する」とあいさつし、平成18年度に完成した県発注工事のうち、対象となる1,907件の中から技術力や施工管理などが特に優れた13件を施工した15社に賞状を授与した。

受賞工事並びに施工業者は次のとおり。

通常砂防事業（沖田面沢工区）
LA28-K1工事
㈱佐藤庫組
通常砂防事業（沖田面沢工区）
LA28-10工事
大平・武石経常建設共同企業体
米代頭首工地区魚道改良設置事業
第01101号工事
花岡土建㈱
系流川地区担い手育成基盤整備事業
第17407号工事
田中建設㈱
米代線フォレスト・コミュニティ
総合整備事業 第00704号工事
秋北建設工業㈱
火山砂防事業（寒沢川工区）

LC54-20工事
㈱あべ建設
県単道路改築事業（豊岡工区）
I126-20工事
㈱藤澤技建
地方特定道路整備事業（長野大橋）
G686-10工事
高三建設㈱
地方街路交付金事業（田沢湖駅前）
SB61-10工事
佐藤建設㈱
大浦沼地担い手育成基盤整備事業
第23412号工事
高吉建設㈱
県単道路改築事業（相川工区）
I108-K1工事
㈱丸栄建設
西又地区ため池等整備事業
第16201号工事
㈱佐藤建設
秋田県立中高一貫教育校（県北地区）プール棟建築工事
丸山・大成特定建設工事共同企業体



技士会

会員技術者12名を表彰

優良工事従事技術者表彰

秋田県土木施工管理技士会（北林一成会長）は、12月26日、技士会表彰規定により、優良工事に従事した会員の技術者（現場代理人）12名を表彰した。

はじめに北林会長が「建設業界は長期にわたる公共事業費の削減により、過当競争の様相が一層深刻になっているが、各発注者においては一昨年に施行された品確法を受け様々なダンピング対策を講じている。秋田県においても、価格のみの競争から価格と技術力を含めた総合的な競争への転換を図るべく、総合評価方式、VE方式の発注割合を拡大する計画が示されており、これまで以上に企業、技術者の技術力が問われる時代となっている。この度、表彰を受けた皆様は、高度な技術力を評価され、優良工事に導いた他の模範とするにふさわしい技術者である。

受賞者の皆様は、その技術力を一層磨き上げ、後進の指導・育成に、積極的に取り組んでいただきたい」とあいさつ。

続いて技術者（現場代理人）に表彰状と記念品が手渡された。

受賞者は次のとおり。

佐藤 政治	㈱佐藤庫組
木村 義久	㈱大平建設
岩谷 政彦	花岡土建㈱
佐藤 貴明	田中建設㈱
松村 恒則	秋北建設工業㈱
伊東 憲義	㈱あべ建設
長澤 郁夫	高三建設㈱
藤田 義美	佐藤建設㈱
小山 貴也	高吉建設㈱
東海林幸一	㈱丸栄建設
佐藤 卓也	㈱佐藤建設
近藤 胤成	丸山建設㈱

北海道・東北ブロック会議開催

優秀事例表彰

むつみ造園土木㈱、㈱伊忠組が受賞

建設産業人材確保・育成推進協議会が主催する「平成19年度北海道・東北ブロック会議」が平成19年12月10日、宮城県建設産業会館で開催され、建設技術者・技能労働者の確保・育成などをテーマに、国土交通省と建設業界、教育関係者のほか、人材確保・育成優秀事例表彰受賞企業8社の代表者らが出席した。意見交換会では優秀事例表彰を受けた8社の取り組みの紹介のあと、テーマに沿って討議された。

地元建設業関係者からは、「若年の定着化に危機感を抱いている」「落札率80%では利益が出ない」「労働賃金が今のままでは人材育成などできない。労働者の生活を考慮した設計労務費単価の調査方法を変えるべきだ」と指摘。

また、教育関係者からは「親は安定志向、先生も建設業界は給料が不安定と思っている。生徒よりも周囲の理解不足が問題」「建設業の社会的地位を確立して欲しい」と要請した。これらの意見を受けて国土交通省は「一番大きい問題は公共事業が少なくなっていることに尽きる。東北地方の社会資本整備の実態をいろいろな場面でPRしていく必要がある」と述べた。

また、意見交換に先立ち、東北地方建設産業人材対策優秀事例表彰式が行われ、秋田県からは、むつみ造園土木㈱（佐々木吉和社長）と㈱伊忠組（伊藤俊悦社長）が社員育成、定着促進において他の模範となるとして表彰された。



建設技術系女性職員交流会

働く女性の心と身体の悩み等について意見交換

県協会では、平成19年12月14日（金）秋田ビューホテルにおいて、建設技術系女性職員交流会を開催した。同交流会は建設雇用改善人材育成の一環として会員企業における技術系女性職員を対象に毎年実施している。交流会には、建設業協会各支部から10名が参加した。

交流会に先立ち、堀江敏明秋田県建設業協会専務理事が「男女共同参画が行われている中、女性技術者の方が活躍する場所も増えてきている。現場の監督、整理等に追われる毎日と思われるが、この機会に女性として日頃抱えているお互いの悩みを話し、交流を深めていただきたい」と挨拶した。

続いて、秋田県ゆずり葉の会の池田信子会長が「働く女性の疾病と健康について」と題して講演を行い、意見交換では「長時間のPCの操作、残業による食事の不規則」「家事と両立、現場の環境」「出産後の負担の少ない部署への配置、夫の協力意識の変化」「週末帰宅後の時間の工夫」等について意見がだされ、池田会長からは「食事の工夫」「生き生きとした笑顔の作り方」「スキンケアの必要性」「生命の貯蓄体操」の実践をするようにとアドバイスがあった。



(財)建設業福祉共済団から 建退共秋田県支部から

上記の記事はホームページに掲載されています。

<http://www.a-kenkyo.or.jp>

情報コラム Vol.18

セーフティネット保証(5号)の対象業種追加

改正建築基準法の施行等に伴い、今般、全国的に建築関連業種に属する中小企業者の業況が悪化していることを踏まえ、建築関連中小企業者への金融の円滑化を図るため、セーフティネット保証(5号)の対象業種について、新たに20業種の追加指定が行われました。

(全国的に)業況の悪化している業種に属する中小企業者を支援するための措置。

【追加業種】

(指定期間：平成19年12月18日～平成20年3月31日)

- | | |
|---------------|---------------------|
| ・とび工事業 | ・毛織物機械染色整理業 |
| ・左官工事業 | ・織物手加工染色整理業 |
| ・板金工事業 | ・一般製材業 |
| ・ガラス工事業 | ・単板(ベニヤ板)・合板製造業 |
| ・金属製建具工事業 | ・床板製造業 |
| ・木製建具工事業 | ・集成材製造業 |
| ・屋根工事業 | ・建築用木製組立材料製造業 |
| (金属製屋根工事業を除く) | ・強化プラスチック製容器・浴槽等製造業 |
| ・防水工事業 | ・板ガラス加工業 |
| ・電気工事業 | ・生コンクリート製造業 |
| ・管工事業 | ・陶磁器製タイル製造業 |
| (さく井工事業を除く) | ・木材・竹材卸売業 |
| | ・建物売買業 |

制度の内容・窓口等は以下アドレスのホームページをご参照下さい。

http://www.chusho.meti.go.jp/kinyu/sefu_net_gaiyou.htm
(中小企業庁・セーフティネット保証制度)

土木建築の

近代化遺産

No.65

十和田ホテル本館

鹿角郡小坂町十和田湖西岸



十和田湖西岸にある十和田ホテルは、昭和十四年(一九三九)に秋田県営十和田観光ホテルとして開業した同ホテルは、同一〇年(一九三五)に十和田湖観光道路が完成、青森から八甲田經由、和井内間、毛馬内、和井内間に国鉄バスが運行され、さらに翌一年(一九三六)に十和田湖地域が国立公園に指定された頃に建設が始められた。ホテル建設を計画したのは当時の秋田県知事、児玉政之氏で、日本大学専門部工科教授であった長倉謙介氏が設計、当時、八幡平湯瀬ホテルを経営していた関直右衛門氏が建設工事を請負い、昭和十一年に着工、同一三年秋に竣工を見た。総工費は当時の金額で一六万円、現在だと約二〇億円に相当する。同ホテルの建築には、秋田、青森、岩手の三県から選りすぐりの宮大工八〇人を集め、その腕前を競わせたといえる。木造二階建て、地下一階の本館は天然秋田杉など地元産の木材を

ふんだんに使い、基壇部の石垣や大屋根、車寄せの庇などに洋風ホテルのような特徴があり、全体の印象としてヨロツバの山荘を思わせる。内部は、吹き抜けの玄関ホールに樹齢六十五、八五年の杉丸太を配し、玄関正面に樹齢約一〇〇年のブナの大柱が立っている。本館内部空間で最も特徴的な玄関ホールには、同じ直径の杉丸太を二重の竿縁に使用した杉皮の天井や、繊細な組子欄間などが見られ、秋田杉のホテルとして重厚かつ緻密な高度な建築の印象を保っている。さらに玄関の踏込板には樺材が、土間の石畳に十和田湖畔の石が敷き詰められている。日本間の客室は各部屋とも床の間、床脇がしつらえられ、それぞれ多様な技術が施されている。なお、十和田ホテル本館は、平成になつてから保存のための大幅な修復工事がなされ、同一五年に「再現が困難な建築物」(登録基準3)の登録有形文化財に指定されている。

(取材・構成/藤原優太郎)

酸性雨が怖い

藤原 優太郎

子供の頃、雨が降ると放射能が混じって危ないという噂がしきりだった。その危険な放射能がどこから来たのかは知らないが、頭の毛が抜けたら大変だと大騒ぎしたものだ。しかし、それが原因で頭髮が抜けたという話もあり聞かなかったからそれほど深刻な問題ではなかったのだろう。

近年、地球の温暖化など環境破壊はますますその度合いを深めている。これは私たち人類が豊かさで便利、快適さなどと引き換えに累積した物質文明の大きな負の遺産である。

1月29日付けの毎日新聞に、「硫黄汚染：中国から流れ込み、樹氷を汚す」という衝撃的な記事が載っていた。山形と宮城両県にまたがる蔵王連峰の有名な樹氷群で硫黄汚染が深刻化しているということだ。これは山形大学と東北大学の研究者の分析によるものだが、今や酸性雨や二酸化炭素排出などの大気汚染は、もはや学者だけの研究テーマではなくなっている。

硫黄酸化物の蔓延はまぎれもなく酸性雨が原因である。酸性雨は樹木の立ち枯れなど目に見える具体的な現象となって現れるので、私たちにもきわめて認識しやすい環境問題といえる。厄介なことに、酸性雨は洋の東西を問わず、国境を越えて広範囲に被害を及ぼすことから地球規模での重大な環境問題となっているのである。

酸性雨とは、火力発電所や金属精錬所などの排ガスとして出る硫黄酸化物などが、大気中で太陽光線やオゾン、水蒸気などと化学反応を起こし、硫酸や硝酸などの酸になり、それが雨や雪に溶けて降り注いでくるものという。この雨や雪の酸性度を示す値がpH（ペーハー）と呼ばれる水素イオン濃度指数である。中性の7を基準に酸性が強いほど小さな数値になり、5.6以下になると酸性雨になるというわけだ。

前述した蔵王連峰の樹氷群の場合は、90年代前

半はpH5.6くらいで推移していたが、その後、しだいに酸性化が進み、今年に入



って生態系への影響が懸念されるpH3.8を記録したという。生態系というと、まるで動物か植物の世界と思われがちだが、無論、私たち人間もその輪の中に入っている。だから、これは実に由々しき問題であるわけだ。

20世紀末、東欧の「鉄のカーテン」が開かれて以来、ポーランドやチェコスロヴァキア、旧東ドイツなど東欧諸国は一気に大気汚染が進み、「黒い三角地帯」として、世界最悪の酸性雨汚染地帯といわれた。驚くことに、これらの三国の森林は1980年頃から一斉に枯れ始め、針葉樹の96.2%が枯死したといわれる。

国境を越えてやって来る酸性雨のようなありがたくない流動的産物は、今、爆発的な経済成長と工業化を進める中国などからのものが多いようだ。今年は北京五輪があり、そのために中国のインフラ整備もめざましいと聞く。そのことによって大気中に排出される温暖化効果ガスや酸性雨の種が偏西風に乗って日本にやって来るとしたら、日本は間違いなく負のグローバル化の第一被害者となる。直接的な因果関係は不明ながら日本の海岸地帯を主としたマツ枯れやナラ枯れ現象なども酸性雨と無縁ではなく、被害はしだいに北上しつつあることも気がかりだ。

樹氷といえば蔵王ばかりでなく、八幡平や森吉山などでも見られる。しかし、この頃はその樹氷の発達が著しく衰えている。本当の樹氷らしい樹氷が見られないことが実感としてある。地球の温暖化や酸性雨の影響は近い将来、現実的、かつ深刻な問題として文明のつけの精算を求めてくるだろう。きれいな空気や安全な水はもはや空想の世界になってしまった。今の私たちはどうしたらいいのだろう。考えると安心して眠れない夜がつづく。